

牛久：学校周辺に見る自然

第1号 みずべ公園

2016年4月20日発行

＜ 駆けぬけるようにうつり変わる、春のようす ～①植物＞

皆さん、こんにちは。理科支援員の宮内です。新年度が始まりました。今年度も、どうぞよろしくお願いたい致します。

今回と次号では、4月6日にみずべ公園を歩いた中かんさつで観察した春の花や昆こんちゆう虫、野鳥たちを紹しょうかい介します。一言ひとことに「春」といっても、3月頭から4月、5月とそのようなようすはどんどん変わっていきます。例えたとば毎週日曜日とか決めて同じ場所、同じ木や草をながめてみましょう。すると、短たんきかん期間に大きく変わっていくことにびっくりするでしょう。



さくらの主役しゅやくはオオカンザクラからヤマザクラへ。花が咲くさのと同時期どうじきに、赤茶色の若葉わかばが開いてきます。

3月にはオオカンザクラが満開まんかいでヒヨドリが盛さかんに蜜みつを吸っていましたが(27年度28号を参考に)、4月に入り、さくらの主役しゅやくは写真のヤマザクラにかわってきました。しばらくすると、ウワミズザクラやイヌザクラも咲きだすことでしょう。



ユキヤナギ(左：バラ科の仲間)と、シダレヤナギ(右：ヤナギ科の仲間)。

同じころ、ユキヤナギも花はなが増えてきます。長く伸びる枝のようすから「ヤナギ」と名がついていますが、花を虫めがねでよく観察してみると、花弁が5枚など、さくらと同じバラ科の仲間であることが分かります。



右の写真は同じ日に咲いていたシダレヤナギ。こちらはヤナギ科の仲間けむしで、毛虫のように見え立ち上がっているのが花(の集まり)です。



イヌシデの芽吹きとたれさがる雄花(の集まり)。枝先の丸いのは、ダニの寄生による虫こぶ(イヌシデメフクレフシ)。

イヌシデの花も咲いていました。細長くたれているのが、雄花の集まり(24年度57号参考)。公園内にはアカシデも多く見られますが、この写真では枝先に丸い実のようなものがついていますね? これは実ではなく、イヌシデメフクレフシという、ダニの仲間が寄生してできる「虫こぶ」なのです。アカシデにも虫こぶができますが、これとは違うものなので簡単に見分けられるのです(23年度74号参考)。



雄花が咲いているアオキのオスの木(左)と、雄花の拡大(右)。

木の花の最後に、アオキです。赤茶色の花が咲いていますが、よく見て下さい。雄しべだけで雌しべがありません。こういう花を「雄花」、逆に雌しべだけで雄しべがないものを「雌花」とよびますが、この木にはいくら探しても雄花しか見つかりませんでした。じつはアオキには雄花しかつかないオスの木と、雌花しかつかないメスの木があるのです。上のイヌシデは雄花と雌花が同じ木に着くし、ヤマザクラなどは一つの花に雄しべと雌しべの両方がありますね? 「花」といってもいろいろなのですね。



続いて、草の花たちです。花卉が5枚、たくさんの雄しべ...、そうバラ科の仲間ですね。黄色のかわいい花を咲かせるミツバツチグリです。次号で紹介しますが、小さなハナバチの仲間がたくさん訪れていました。同じ場所によく似たキジムシロも咲きますので、注意が必要です。

一つの花に雌しべも雄しべもあるバラ科の仲間、ミツバツチグリ。



りんえん
林縁に多いタチツボスミレ(左上)と、日当たりのよいやや
かわ
乾いた場所に多いニオイタチツボスミレ(右上)、アカネス
ミレ(下)。花柄や花弁の毛の有無などで見分けられる。

次は、スミレの仲間。一番多いのがタチツボス
ミレ。林の縁などでよく見られます。これとよく
似て日当たりのよいやや乾いたところに見られるの
がニオイタチツボスミレ。紫の部分^{むらさき}が濃^こく、
手を添^そえて匂^{にお}いをかぐとよい香^{かおり}がする場合があります
ですが、花の柄に細^えかい毛がたくさんあることでは

っきり見分けられます。アカネスミレもこれと同じような日当たりのよい場所に見られますが、花の
左右の花弁の奥側^{かべん おくがわ}に細^{かんたん}かい毛がたくさん生えているので、花が咲いて入れば簡単に見分けられます。



日当たりのよい場所に見られるフデリンドウ。青^{あおむらさき} 紫の花をつけるものが多いが、赤^{あかむらさき} 紫のものも見られる(右)。

日当たりのよい場所には、フデリンドウのかわいい花も咲いています。とても小さいので、まちが
ってふみつぶさないように気をつけて下さい。日が陰ると閉じてしまいますので、よく晴れた日をねら
って観察しましょう。青^{あおむらさき}から青^{あおむらさき} 紫の花が多いですが、探すと赤^{あかむらさき} 紫の花も見られますよ。



もう一つ、かわいい花。よく湿った場所に多いム
ラサキサギゴケです。よく似た花にトキワハゼが
ありますが、そちらは花の大きさがずっと小さく横に
はう枝を出さないで見分けられます。牛久自然観察
の森では^{むらさき} 紫の花だけでなく白花のものも見られ、こ
れを「サギゴケ」とよぶ考えもあるそうです。

^{むらさき} 紫のかわいい花をたくさんつける、ムラサキサギゴケ。



ヨーロッパからやって来たセイヨウタンポポ(左)と、日本にもともとあったカントウタンポポ(右)。

続いて、キク科の仲間です。まずは皆さんよくご存じのたんぽぽ。みずべ公園に多いのはヨーロッパからやって来たセイヨウタンポポ。よく探すと日本にもともとあったカントウタンポポも見つかります。ただし、セイヨウタンポポとカントウタンポポの間にも子どものたんぽぽができるようで、中間的な特徴のものも見つかれば見分けが難しい場合もあります。



左はオニタビラコ。ロゼットで冬ごししていた草です(27年度26号参考)。春になるとぐんぐんと茎をのばし、小さな花をたくさん咲かせます。

右はオオジシバリ。田んぼのあぜなど、湿り気の多い場所によく見られる草です。虫めがねで、花をのぞいてみましょう。ハナバチなどによって花粉が運ばれないと、雌しべの先(花柱)がくると巻いて、自分の花粉を受粉するそうです。

キク科の仲間、オニタビラコ(左)とオオジシバリ(右)。



こちらはロゼットの葉の先がやや立ち上がり、そのまん中に花をつけていました。ハルジオンです。まだ茎がいくらか伸びていないのに、もう花を咲かせているのですね。ノゲシやオニタビラコなどでも、こんな状態を見かけることがあります。よく似た花にヒメジョオンというのがありますが、それが咲き始めた頃に、見分け方についてお話ししましょう。

茎があまり伸びないうちに花を咲かせたハルジオン。



こちらも黄色い花ですが、キク科の仲間ではありません。花も葉も、ぜんぜん違いますね。庭などでもよく見かけるカタバミです。なんと、通路のアスファルトを割って、葉を広げ花を咲かせていました。仲間に、葉が赤紫色を帯びるアカカタバミというのがあります。

通路のアスファルトを割って、葉を広げ花を咲かせたカタバミ。



ヨーロッパ～東アジアからやって来たミチタネツケバナ(左)と、日本にもともとあったタネツケバナ(右)。

こちらはアブラナ科の仲間で、よく間違えられるミチタネツケバナとタネツケバナです。ミチタネツケバナはヨーロッパ～東アジア原産といわれる帰化植物(外国からやってきて日本にすみついた植物)で、写真のように、花が咲いている時に冬越ししたロゼットの葉が元気に残っています。また、花が小さく雄しべはふつう4本、実は茎にひつつくような角度で着きます。それに対しタネツケバナは日本にもともとある草で、花の時期にはふつうロゼットの葉は枯れてありません。また、花が大きめで雄しべは6本、実は茎から少し開くように着きます。こうして2枚並べると、違うと分かりますね。



シソ科の仲間で茎が四角いヒメオドリコソウ(左)と、ユリ科の仲間で葉をもむとニラのおいがするハナニラ(右)。

最後に、シソ科の仲間ヒメオドリコソウと、ユリ科の仲間ハナニラ。シソ科の草は茎が四角く、葉をもむと強いにおいのあるものが多いです。身近なものでは、ミントなどもこの仲間ですね。ハナニラは27年度30号でも紹介したばかりですが、葉をもむとニラのようなにおいがします。きれいな花ですね。英語では「スプリング・スターフラワー」とよばれているそうです。 【理科支援員：宮内】